

臨床思考向上委員会～回盲弁と腰痛～

今回は回盲部と腰痛の関係について
お話しをしていきたいと思います。

回盲弁という言葉は初めて聞く方が
いらっしゃるかもしれません。

小腸と大腸の間の場所になります。
近くには虫垂炎で有名な虫垂があります。

ここの状態があまり良くない。
動きが良くないと、
腰痛を起こすことがあります。

例えばですね、季節の変わり目や
飛行機に一時間半以上乗った後に、

急に調子が悪い、
例えば腰が痛いだけではなく、
肩が痛いとか首が痛いとか、
手足がしびれたりとか...

いろんな症状を複合した時に、
最初にやるべきポイントです。

それ以外では、
子供の夜泣きの時に
やることがあります。

責任は負えませんが、
リスクを管理しながら
やる必要があります。

このテクニックを使うことで、
夜泣きがなくなったというのを

聞いております。

どういう場所にあるかというとお臍と上前腸骨棘の間で、

大体1/3ですね、上前腸骨棘側に虫垂のあるマックバーニ一点があります。

その近くで、その場所の横側から押してあげるだけでも、回盲弁に対する手技になります。

持続圧で30~60秒程で完了です。施術中に腹膜のストレッチが開放されて膜のバリアが解消される。

柔らかくなっていくことを、触察できる方もおられます。

こういったことを指標に、実践してみてください。